

目 次

平成29年12月15日（金曜日）第2号

○招集年月日	-----	1 頁
○招集の場所	-----	1 頁
○開 議 日 時	-----	1 頁
○応 招 議 員	-----	1 頁
○不応招議員	-----	1 頁
○出席 議 員	-----	1 頁
○欠 席 議 員	-----	1 頁
○地方自治法第121条の規定により説明のため出席した者の職氏名	-----	1 頁
○本会議に職務のため出席した者の職氏名	-----	1 頁
○議 事 日 程	-----	2 頁
○開 議 宣 告	-----	3 頁
○諸般の報告	-----	3 頁
○一 般 質 問	大谷議員 -----	3 頁
	・結婚支援について	
	角議員 -----	4 頁
	・新年度予算編成と行財政運営は	
	村川議員 -----	7 頁
	・集会施設等公共施設の管理計画をどう進めるのか	
	北川議員 -----	10 頁
	・「新幹線駅周辺整備計画」の進捗状況は	
	・国道5号線バイパス沿いの海岸における、砂や漂着物等の堆積物の除去 に係わる改善措置の経過は	
	柏倉議員 -----	15 頁
	・防災対策を問う	
	・労働力不足問題をどうする	
	辻議員 -----	21 頁
	・介護施設等の人材確保について	
	・長期の商工振興対策について	
○議案第12号 平成29年度長万部町一般会計補正予算（第10号）	-----	25 頁
○特別委員会の報告について	-----	26 頁

○所管事務等の調査及び閉会中の継続調査について	-----	28頁
○閉会宣言	-----	28頁

平成29年第4回長万部町議会定例会（第2日目）

◎招集年月日 平成29年12月15日（金）

◎招集の場所 長万部町役場 議場

◎開議日時 平成29年12月15日（金） 午前10時00分

◎応招議員（9名）

1番	北川佳嗣	6番	大谷敏弥
2番	長崎厚	7番	村川毅
3番	辻紀樹	8番	角健
4番	高森功治	9番	柏倉恵里子
5番	橋本收司	10番	辻義雄

◎不応招議員（1名）

4番 高森功治

◎出席議員 応招議員と同じ

◎欠席議員 不応招議員と同じ

◎地方自治法第121条の規定により説明のため出席した者の職氏名

町長	木幡正志	水道ガス課長	佐藤剛
副町長	佐々木伸也	出納室長	小川洋
総務課長	本前武広	消防長	佐藤英代
まちづくり新幹線課長	加藤慶一	病院事務長	田辺知行
まちづくり新幹線課参事	寺島進一	教育長	近藤英隆
税務課長	中森恵	教育次長	岡野喜美雄
町民課長	中里博也	教育委員会事務局参事	佐藤修
保健福祉課長	豊嶋慎一	選挙管理委員会事務局書記長	本前武広
産業振興課長	中山裕幸	監査事務局長	岡部忠
産業振興課参事	中田信樹	農業委員会事務局長	中山裕幸
建設課長	神野隆之	農業委員会事務局次長	中田信樹

◎本会議に職務のため出席した者の職氏名

議会事務局長	岡部忠
議事係長	増田理恵
議事係	岡田幸

◎議事日程

日程第1 一般質問

日程第2 議案第12号 平成29年度長万部町一般会計補正予算（第10号）

日程第3 特別委員会の報告について

日程第4 所管事務等の調査及び閉会中の継続調査について

◎開議宣告

10時00分 開会

- 議長（辻義雄） ただいまの出席議員は9名であります。
定足数に達しておりますので、これより本日の会議を開きます。
なお、欠席届が高森議員よりありました。
-

◎諸般の報告

- 議長（辻義雄） 諸般の報告を事務局長からいたします。
岡部事務局長。
- 議会事務局長（岡部忠） 諸般の報告をいたします。各議員から議員派遣結果報告書の提出がありましたので、お手元に配付いたしました。また、本日議題となります、まちづくり・新幹線調査特別委員会視察調査報告書および所管事務調査等の調査および閉会中の継続調査の申出書を、それぞれお手元に配付いたしました。以上であります。
- 議長（辻義雄） 以上で諸般の報告を終わります。
-

◎一般質問

- 議長（辻義雄） 日程第1、一般質問を行います。質問用紙はあらかじめ配付済であります。質問者は6名、質問件数は9件となっております。
- この際申し上げます。一般質問の質問時間は各議員40分以内と決定しております。質問時間の終了3分前と、終了時にブザーを鳴らしますのでご承知おきください。それでは順次質問を許します。
- 大谷議員。

〔議員（6番 大谷敏弥）登壇〕

- 議員（6番 大谷敏弥） 私は1問について質問をします。結婚支援について。独身男女の出会いの場づくりやマッチングといった結婚を支援する事業について、47都道府県を対象に実施、少子化対策を後押しする国の交付金制度が創設され、17年度の予算額や現在の支援内容などの意見があった。17年度は、大部分が国の交付金を利用すると回答。事業内容は「子育て体験などの開催」が最も多く「結婚支援イベントなどの出会いの場づくり」「結婚支援センターの設置」「独身男女のマッチング」が続いた。実施理由は「少子化克服」や「結婚を希望しても出会いに恵まれない男女の交際のきっかけとするため」と回答が多かった。成婚数について一定の評価ができると指摘、また事業の主な理由は「安全・安心・低予算で参加できる」という意見があった。この事業は、地域少子化対策、また地域の活性化などが期待されることが大きいと思うが、長万部町も一度結婚支援のイベント等を開催してみたいかがか。町長の所信を伺います。

〔議員（6番 大谷敏弥）自席へ〕

- 議長（辻義雄） 木幡町長。

〔町長（木幡正志）登壇〕

○町長（木幡正志） 結婚支援について、ご回答申し上げます。

ご質問にも示されておりますとおり、国では少子化対策として地域少子化対策重点推進交付金制度を創設しております。

道では「北海道出会いづくり支援事業費補助金交付要綱」を定め、結婚に対する取組として、各地域における結婚支援の基盤整備や、結婚相談窓口の設置、結婚を希望する方々の希望の実現への支援などが受けられますが、これらの補助金は、補助事業者として北海道内の商工会議所、商工会、農業協同組合、漁業協同組合、信用金庫、信用組合および社会福祉法人などを対象にした制度を実施しております。また、市町村でも事業実施計画を策定のうえ、道を通して申請ができることとなっております。

ご質問の結婚支援のイベント等の開催につきましては、商工会をはじめ、町内各団体等に補助制度の周知をしていくとともに、各団体等のご意見・ご要望などを聞き取りながら、少子化対策としての結婚支援策の必要性を検討してまいります。以上です。

〔町長（木幡正志）自席へ〕

○議長（辻義雄） 大谷議員。

○議員（6番 大谷敏弥） では、再質問をいたします。結婚支援イベントに参加し、たとえ結婚に至らなくても出会いの場に出てきて、人とふれあうことができるコミュニケーション能力や若者の力が高まり地域の活性化に繋がるのでは。また、農業、漁業など地域産業の後継者育成に繋ぎたい狙いもあると思います。例えば、スポーツを通じて、男女が出会うスポーツの中で、互いを知ってもらい、かしこまった雰囲気じゃなく、打ち解けやすかったという意見も聞いております。理想の結婚相手を見つけるために活動する結婚支援イベントを通じた結婚件数は年々増えており、少子化対策や、地域活性化に繋がりたいと自治体も出会いの場づくりに知恵を絞っているようです。町として企画したイベントに各団体からの支援の取組が上がってくるとは思いますが、再度お聞きします。結婚支援イベントの開催を進めてはいかがでしょうか。

○議長（辻義雄） 木幡町長。

○町長（木幡正志） 先ほどきちっと答弁してるんですけども、やっぱりひとつの出会いというのは、ここの事例で話をしますと、JAはこだて農協さんが、去年も八雲で実施をしております。その際に、長万部の農協の支部の方にご相談あって、長万部農協の組合員が一人参加してるんです。そういう形で実施をされておりますので、その後農協さんに、この質問をいただいた段階でお話を聞いたところ、あまり人気がない。申込みが少なくて事業の実施に陰りが見えてきてるっていう話をいただきました。ですから長万部町としてやるんでなくて、先ほど答弁したとおり、各団体がそれぞれ企画をされて、それに支援していくというそういう形になろうかと思っておりますので、ご理解をしていただければと思います。以上です。

○議長（辻義雄） 以上で大谷議員の質問を終わります。

角議員。

〔議員（8番 角健）登壇〕

○議員（8番 角健） 1点について質問させていただきます。新年度予算編成と行財政運営は。年明け早々には、平成30年度予算づくりに取りかかることとなりますが、本町の財政は、人口の減少や少子高齢化の進展などで極めて厳しい状況下にあります。

町長は町政執行方針で、将来の北海道新幹線長万部駅開業を見据え、本町が誇りと希望の持てるふるさととして、未来に向かい永続的に発展できるよう、町民のみなさんと英知を結集し、各種施

策の実現を目指す決意ですが、限られた財政の中で新年度に取り組む施策についてお伺いいたします。

- 1、新規事業として取り組む計画は。
- 2、13年後の新幹線開業を見据えたアクションプラン策定後の展開は。
- 3、移動町長室が10月10日から開催されました。町民のご意見・要望の町政運営は。
- 4、昭和48年に完成した中央跨線橋の改修工事の見通しは。以上お願いします。

〔議員（8番 角健）自席へ〕

○議長（辻義雄） 木幡町長。

〔町長（木幡正志）登壇〕

○町長（木幡正志） 新年度予算編成と行財政運営は。ご回答申し上げます。

1点目、新規事業として取り組む計画であります。新年度予算の編成については、11月末で各課からの予算要求を取りまとめ、現在、経常経費の査定が終了した段階であります。

今後、新規事業を含む事業費等については、優先度や費用対効果を見極めるとともに、最小の経費で最大の効果となるよう施策や事業の選択と集中を図りながら、予算編成を進めてまいります。

2点目のアクションプラン策定後については、引き続き、まちづくり推進会議による議論を行うとともに、観光振興分野、まちなみ形成分野、交通アクセス分野の3つの分野について、行政と民間が役割分担をしながら開業に向けて取り組んでまいります。また、アクションプランにより提言された駅周辺整備を中心としたまちづくりの方向性を具体化していくとともに、まちづくりの将来像を基本方針として定める都市計画マスタープランの改訂と、まちの機能を整理する立地適正化計画を定め、道道昇格要望の具体的内容も含めた都市計画決定を経て、駅前広場および街路事業などの道路事業、自由通路・まちの駅・駐車場などの運営や実施主体の役割分担も含めた検討や駅舎デザインなどの検討を重ね、その後実施設計等に入っていく展開であります。これらのほか、並行在来線のあり方の検討や新幹線駅開業を見据えた観光・交通などの広域連携の取組についても同時に進めていく予定であります。

3点目の移動町長室では、災害など緊急時の情報伝達に関する課題や防災訓練での対応など、災害対策全般についてや、新幹線建設工事に関すること、ふるさと納税の拡大や理科大アグリ事業への期待、空き家対策、町立病院での課題改善など広範囲な分野において、多くのご意見・ご要望などをいただいたところであります。これらのご意見・ご要望につきましては、速やかに庁内会議を開催し、担当部署と十分に対応策を協議しております。一例を挙げますと、静狩地区での移動町長室では、新幹線建設工事に伴う現地での関連工事について、静狩金山の鉍毒物質などが、過去に坑口付近に埋立された区域も存在することから、漁業者を中心に関連工事へ懸念する声が多く出されましたが、翌日には担当課と共に現地に出向き、鉄道・運輸機構や関連施工業者立会のもと現地確認し、その後、静狩地区での工事に関する説明会や静狩地区住民による立岩トンネルルコツ工区視察などを実施し、同地区住民のご理解を得ることができました。その他のご意見・ご要望につきましても、短期的・中長期的課題などに分けながら、費用対効果や行政課題全般における優先順位なども勘案して町政運営に活かしてまいります。

4点目ですが中央跨線橋の改修工事の見通しにつきましては、中央跨線橋は以前より、JR北海道との間で大規模な改修に係る協議を行っているところであります。

しかしながら、入札の不調等があり、改修工事实現には至っておりません。そうした中、平成28年の橋梁調査において、強度不足が指摘され、同年、強度確保のための応急修繕工事を行ったと

ころであります。

中央跨線橋は、線路の海側と山側を結ぶ重要な人道橋であると認識しており、町としましては、強度は確保しているながらも、全体的な老朽化の進行が懸念されるため、早期の改修を目指し、現在もJR北海道との協議を継続しているところであります。

今後の改修工事の見通しにつきましては、来年度に改修工事に係る実施設計を行い、その結果をもってJR北海道と改修工事にかかる具体的な協議を行ってまいります。

また、工事にあたっての事業費は国の社会資本整備総合交付金を活用するため、その実施設計の結果をもって国に対し要望を行い、最短で平成32年度の着工に向けて、事業を進めてまいりたいと考えております。以上です。

[町長（木幡正志）自席へ]

○議長（辻義雄） 角議員。

○議員（8番 角健） 再質問をさせていただきます。2点目の答弁で、行政と民間が役割を分担しながら、開業に向けて取り組む姿勢を述べられました。町内には新幹線工事関連の工事事務所、宿泊施設が整備されてきております。町内の商店ならびに建設業者等の効果を期待いたしますが、町ができる対応についてお伺いいたします。

○議長（辻義雄） 木幡町長。

○町長（木幡正志） もう1回質問をお願いします。

○議員（8番 角健） じゃあ最初から。2点目の答弁で、行政と民間が役割を分担しながら、開業に向けて取り組む姿勢を述べられました。町内には新幹線工事関連の工事事務所、宿泊施設が整備されてきています。町内の商店、建設業者等の効果を期待いたしますが、町ができる対応についてお伺いいたします。

○議長（辻義雄） 木幡町長。

○町長（木幡正志） 町の消費経済の話だと思うんですが、それでよろしいですか。

町内の商工会の会長さん含めて、工事関係者、宿泊所、事務所の方にご挨拶に伺って、ぜひ長万部の町内で買い物をしていただきたいということをお願ひにあがっております。その点で、業者さんの方はこれからしばらく長万部でお世話になるんで、ぜひ長万部から買い物も含めていたしたいという話でございますので。どうぞいろんな業種がございます。食品を扱っている業種、洗濯屋さんもある布団屋さんもあるので、それは商工会の方でみなさんをお連れして、ご挨拶を伺うようにという話をして、実際にご挨拶に行ってる。それがもう現実の段階に入ってます。以上です。

○議長（辻義雄） 角議員。

○議員（8番 角健） ただいまの質問の中に、これから町内の工事も進むと思います。建設業者関係に対して、どのような町としての、間に入って対応できますか。

○議長（辻義雄） 木幡町長。

○町長（木幡正志） 工事の対応は、鉄道・運輸機構が全て行うので、町の方は関与しません。

○議長（辻義雄） 角議員。

○議員（8番 角健） それでは4点目の、中央跨線橋の件になりますが、当初の計画では、全長を3分割の工事区として、3か年の工事期間になっていりましたが、JR北海道指定の業者が作業員不足などの理由で、入札が不調となっていました。その後補修工事等実施されていますが、通路の鉄骨の腐食が目立ち、老朽化が進行している状況であります。それで、最初の大規模改修の発注されたのは何年だったのでしょうか。また、工事価格はおいくらだったのでしょうか。

- 議長（辻義雄） 木幡町長。
○町長（木幡正志） 最初の工事発注は、平成26年。
○議長（辻義雄） 休憩します。

10時19分 休憩

10時23分 再開

休憩前に引き続き会議を開きます。

木幡町長。

○町長（木幡正志） 休憩取っていただいてありがとうございました。それで、26年度の工事の内訳金額については、7,216万2,000円。以上です。

○議長（辻義雄） 角議員。

○議員（8番 角健） 中央跨線橋の改修工事が、最短で平成32年の着工との答弁をいただきました。実施設計についてお伺いいたします。現状では、全長が140m、両側の階段の総数が89階段、温泉側は通路が下り勾配になっておりまして35段です。本町側は構造上54段と急勾配になっております。この改善に対する意見を多く聞いておりますが、未来の設計図の概要についてお伺いいたします。

○議長（辻義雄） 木幡町長。

○町長（木幡正志） 変わりません。現状の修理です。

○議長（辻義雄） 以上で角議員の質問を終わります。

村川議員。

〔議員（7番 村川毅）登壇〕

○議員（7番 村川毅） 私は1点について質問いたします。集会施設等公共施設の管理計画をどう進めるのか。公共施設等総合管理計画は、総務省の要請により本町も平成28年度に策定しており、この計画は平成29年度から平成38年度までの10年間を対象期間としております。

この管理計画の策定の基礎資料となっている公共施設白書によると、本町の公共施設は92施設あり、集会施設、スポーツ施設などは半数以上が築40年、学校教育を支える施設や高齢者福祉施設、病院施設など、町民の暮らしに欠かせない施設が築30年以上となり、近い将来施設の更新が必要となっております。

昨年12月の総務委員会において、1月にパブリックコメントを行い、29年度以降は個々の施設の個別計画を策定すると説明を受けましたが、29年度の取り組み状況と今後どのようなスケジュールで個別計画を策定するのか町長の所見をお伺いします。以上です。

〔議員（7番 村川毅）自席へ〕

○議長（辻義雄） 木幡町長。

〔町長（木幡正志）登壇〕

○町長（木幡正志） 集会施設等公共施設の管理計画をどう進めるか、ご回答申し上げます。

本町における公共施設等総合管理計画については、人口の減少や少子高齢化などにより、財政逼迫の懸念や施設の利用需要が変化することが予想されることから、長期的な視点をもって更新・統廃合・長寿命化などを計画的に行うことを目的として、平成29年3月に策定をしたところであります。

今後、各施設における個別計画を作成することとなりますが、その前段として本年度および平成30年度において、財政推計の作成および老朽化が著しいなどの理由により、今後使用する見込み

のない施設等の選別を進め、平成31年度において財政の中長期計画も考慮したうえで、残る施設について町民のみなさんからご意見をいただくとともに、各施設の長寿命化にかかる調査を実施し、平成32年度には、まちづくり総合計画や都市計画マスタープランなどの各種計画との整合性を図りながら、個別計画を策定する予定となっております。以上です。

〔町長（木幡正志）自席へ〕

○議長（辻義雄） 村川議員。

○議員（7番 村川毅） 再質問いたします。スケジュールはわかりました。平成32年度は今の第3期総合計画の最終年度ですから、次期の総合計画に組み入れていくためには、それまでの個別の計画を策定するということだと思いますけれども。

それでは、個別の計画を作成するにあたって、どこの課が中心になって、どのようなメンバーで進めるのか。それとももう現在進んでいるのかをお教えてください。

○議長（辻義雄） 木幡町長。

○町長（木幡正志） 総務課を中心にして、施設管理の関係を含めて、これから協議をしてまいりたい、そう思っております。

○議長（辻義雄） 村川議員。

○議員（7番 村川毅） 総務課を中心に進めるということなんですけれども、多分、多分っていうか、これ総務課だけでは当然できないわけで、横断的に進めると。今現在はまだ検討委員会なり、そういうプロジェクトなり、そういうのはまだできてないってということですかね。

○議長（辻義雄） 木幡町長。

○町長（木幡正志） まだそこまでは言ってません。

○議長（辻義雄） 村川議員。

○議員（7番 村川毅） 32年度に作り上げるっていうことになると、30、31年度で個別の計画をまとめることになると思うんですよ。町民のみなさんに示していくたたき台の中に、建替するという施設が示されるんでしょうかね。先ほどの答弁だと、使用する見込みのない施設の選別、それから長寿命化にかかる調査という実施するということなので、なんかその中では建替の議論がされないような気がするんですけれども、いかがでしょうか。

○議長（辻義雄） 木幡町長。

○町長（木幡正志） 少々早々の話になるんですが、やっぱりあの40年経った建物自体、当時の人口推計1万人を超えた時代の建物が殆どなんで、それで今後、町の人口に見合った形でいくと、統廃合を進める場所、また集約的に建物の関係、新築含めて、どういうふうな形で進んでいくかっていうことについては、十分プロジェクト、課の中で検討を進めたうえで、町民のみなさんにご相談申し上げて、作成をしていきたいとそう思っております。

○議長（辻義雄） 村川議員。

○議員（7番 村川毅） 管理計画の中で、今後10年間で延床面積の縮減目標を6%というふうに設定しております。これは当然どこを縮減していくかという議論となると思うんですけれどもね。ただこの縮減する議論だけをしてくと、建替っていうか新たに建てるという話が出てこないような気がするもんですから。特に6月議会でも話に出ました町立病院の施設の関係。これは津波の浸水区域でもありますし、老朽化した施設の維持管理に多額の費用が掛かっていると、さらに避難場所とされる福祉センターや、スポーツセンターなどの建替を、協議の場に乗せてもいいのかなというふうには思ってるんですけれど、その辺いかがですかね。

○議長（辻義雄） 木幡町長。

○町長（木幡正志） 町立病院だけ取り上げて話をすると、先ほど言ったとおり、一番危険なのは津波の対応、これはもうとにかく急がなきゃいけない部分で。今入院してる患者さん含めて、津波が発生した場合については、避難をさせる準備どころか避難させる前に津波の襲来を受ける可能性が十分にあるということで、以前にもお話ししたとおり、来年、年度当初からこの協議会ちょっと立ち上げて、今後病院の施設管理の方向から、将来的な方向までどうするかっていうことで、4月にはそういった協議会を立ち上げながら進めていきたい、それはただ病院のことだけ取り上げるんでなくて、やっぱり町の、町民のみなさんの安心安全な医療体制をしっかりと繋いでいくためには、緊急な課題だなと思っておりますので、そのような形で4月から入りたいと思っております。

○議長（辻義雄） 村川議員。

○議員（7番 村川毅） ちょっとじゃあ町立病院に絞ってお話しさせていただきますと、6月の段階で、町立病院の施設の在り方ということでね、副町長を中心に総務課長、まちづくり新幹線課長、参事、建設課長、保健福祉課長、病院事務長、医事係長に庶務係長に検討会議を設置して協議してきたという話で。その方向性がまだ出てないんだという、6月の段階でね、そういうお話でしたよね。今現在スプリンクラーの工事をしてますよね、ということは建替っていうよりも長寿命化の方向で、その方向性が出たのかなというふうには感じてたんですけども、その検討会議の方向制というのはどういう方向で出てるんですかね。

○議長（辻義雄） 木幡町長。

○町長（木幡正志） 実は6月の時点で、消防法の中で、長万部の町立病院が、いわゆるスプリンクラーが付いてないってことで、それを今年度末までには整備しなさいっていう指導があったんです。これももうそういった指導があつてからいろんな消防法の改正はあったものの、指摘されてから20年経ってる。まずあの建物を、病院自体を建築して開業するまでには、様々な経過を辿っていくと4～5年先になってしまうっていう話になってくるんで、その前にまず消防法の範囲をきっちりと整理をしなければならない。それで今回、前回の議会でもお願いもしまして、今一番安価で何とか今のスプリンクラーで対応できるっていうことで、先般議会で予算を計上して、この年度末3月までにとにかくスプリンクラーを設置して、消防法の適用から外していただくと。そしてその後、病院の関係についても先ほどお話ししたとおり、検討会議を進めながら、当時35年前に建設された病院の時代と、今の人口推計と、それから町民の要望や期待ってこともあるもんですから、今回の移動町長室におかれてもやっぱり町立病院の医療の安定化を図ってくれという言葉も出ておりますので、ぜひそういった町民の願いも含めて、病院の整備をしていきたいなと思ってます。その関係でちょっと事前にスプリンクラーだけは、どうしても消防法の適用から外させていただくためには、やらなきゃいけない事業だったということでございますので、ご理解をいただければ。お願いいたします。

○議長（辻義雄） 村川委員。

○議員（7番 村川毅） というと、スプリンクラー工事をしたからといって、病院の建替が検討事項からなくなったということではないということなんですよね。

先ほどの話に戻りますけれども、この計画を作る32年までの間に、病院の建替の検討も出てくるでしょうし、福祉センターやスポーツセンターや各地域の会館の話も出てくると思うんですけども、この建替に、要するになくする方じゃなくて、建て替えていくっていう検討もされるというふうに考えていいんでしょうか。

○議長（辻義雄） 木幡町長。

○町長（木幡正志） 今朝の新聞でも交付金が16兆円前後っていうことで、3,000億くらい全体的に削られるっていうニュースがございました。建替するのにしてもなんにしても、とにかくまず財政の中長期計画をきちっと立てなかったら、やった後に財政破綻を起こすような、そんな形にはできないんで、そこら辺を十分図りながら、計画を進めていかなきゃいけないなど。だから全体をすぐ建てますっていう話じゃなくて、どういう形で年次を決めながら、統廃合含めて、それからまた建てるにしても、複合施設なり、そういったものの考え方をしながら、財政がまず最初に検証されるもんだと思っておりますので、財政検証後の計画を立てていきたいとそう思っています。

○議長（辻義雄） 村川議員。

○議員（7番 村川毅） 財政の問題から言えば、当然そういう話になると思うんですけども。あと2年で作るっていう話なんですよね、その間に町民との意見も聞くという話で、今現在それを進める組織もまだ出来上がってないということで、非常にこの短期間でやらなければならないということなので、ある程度のたたき台を事前に示していただいて、それを町民のみなさんに話していただくって。そのためにはもちろん、この建物を建てれば、こことここは統廃合してなくなるよというような、その部分まで、町の方でたたき台を作って進めていかなければ、なかなかまとまらないような気がするんですけども、そういうことですよ、町長ね。どうですか。

○議長（辻義雄） 木幡町長。

○町長（木幡正志） 実はおっしゃるとおりなんです。ということは、先ほど統廃合も複合施設もっていうことになると、例えば地域会館ひとつにとっても、ここにあって、ここを新築する、ここを統廃合するという形になったら、その作らない地域になってくると反対が起きてくるし。自分の立場を考えながら、賛成反対の議論が巻き起こってくるのは当然の結果だなと思っておりますけれども、ただ、たたき台としてそういったもの^{しんしやく}きちっと提示しないと、議論の前進にならないと思ってるんで、そこら辺の^{しんしやく}ことについては十分斟酌しながら考えていきたいとそう思っています。

○議長（辻義雄） 以上で村川議員の質問を終わります。

北川議員。

〔議員（1番 北川佳嗣）登壇〕

○議員（1番 北川佳嗣） 私は2問質問をいたします。

1つ目。「新幹線駅周辺整備計画」の進捗状況は。本町の「新幹線駅周辺整備計画」が本年3月に公表されました。その後、6月末に国土交通省より長万部駅周辺の高架化の認可決定が発表されました。この決定を受けてにわかには新幹線長万部駅の未来像が現実味を帯びてまいりました。これに伴い、当初計画の遂行を遅滞なく進めて行かなければならない状況に至っていると思っておりますが、計画の進捗状況についてお尋ねいたします。

2問目。国道5号線バイパス沿いの海岸における、砂や漂着物等の堆積物の除去にかかわる改善措置の経過は。昨年8月、本町を通過した台風10号の影響により、海岸からの高波が防波堤や国道5号線バイパスを乗り越え、後背地の住宅や事業所に大きな被害をもたらしました。同年12月開催の第4回定例会において、この台風による越波被害の防止策について質問し、町長からは「海浜地管理者である北海道に要望を続けたい」との回答をいただいております。その後の改善措置や経過はどのようになっているのかお尋ねいたします。

〔議員（1番 北川佳嗣）自席へ〕

○議長（辻義雄） 木幡町長。

〔町長（木幡正志）登壇〕

○町長（木幡正志） 「新幹線駅周辺整備計画」の進捗状況ということでございますのでご回答申し上げます。

今年度は、実行計画や整備計画をもとに、開業までの13年間、官民が一体となって取り組んで行くための行動指針となる、まちづくりアクションプランを策定することとしておりますが、このプランでは、ハードの観点から、駅前広場や自由通路の整備案の検討を行うとともに、ソフトの観点から、昨年度策定したロードマップに基づき、観光振興分野、まちなみ形成分野、交通アクセス分野の3つの分野について、開業までの行動指針を策定するものであり、現在、長万部まちづくり推進会議での議論を中心として検討を進めております。

これまで、まちづくり推進会議を4回、中心市街地の活性化、まちの駅などを所掌する、まちなみ部会を4回、観光資源の発掘・磨き上げ、長万部温泉街の活性化などを所掌する観光振興部会を2回開催しておりますが、アクションプランの策定がゴールではなく、このプランに従い、行政と民間がそれぞれの役割分担に応じて着実に実行していくためのスタートとなるものとして策定してまいります。

次に、国道5号線バイパス沿いの海岸における、砂や漂着物等の堆積物の除去にかかわる改善措置の経過は、答弁させていただきます。

平成28年12月開催の第4回定例会で、議員よりご質問いただきました海岸砂の除去につきまして、その後の経過についてご説明申し上げます。

平成29年3月24日、八雲町で行われました函館建設管理部地域社会資本推進会議において、海浜管理者である北海道に対し、防災の面から堆積した海岸砂の除去を要望いたしました。これに対して函館建設管理部より、要望の件の効果実証のため、実験的に海岸砂の掘り下げを行うとの返答があり、平成29年4月10日から1週間、消防署前約100メートル間の堤防の海岸砂を除去し、堤防を2メートル露出させる工事を行っていただいたところであります。その後は、月に1度のペースで、函館建設管理部による経過観察が行われており、約8か月経過した。現在、50センチほど砂が堆積し、堤防は約1.5メートルの露出となっております。工事から現在まで、堤防を越波するような高波はありませんでしたが、効果が認められれば対象範囲を広げていくとのことです。北海道による今後の実証実験を見守りながら引き続き要望を行ってまいりたいと思っております。以上です。

〔町長（木幡正志）自席へ〕

○議長（辻義雄） 北川議員。

○議員（1番 北川佳嗣） ではまず1問目についてであります。先ほど町長よりご答弁がありました、3つの分野について、まちづくり推進会議において活発な議論が繰り広げられていることは承知しております。この場をお借りいたしまして推進会議のメンバーのみなさまには敬意を表します。

ただいまの答弁の中で、3つの分野というのが29年3月に公表されました新幹線駅周辺整備計画の中にも盛り込まれておりますが、観光振興分野や交通アクセス分野については、時間的にまだ多少余裕があるように感じておりますが、まちなみ形成分野については、喫緊の課題として整理をしていかなければならない分野だと思っておりますが、いかがでしょうか。

○議長（辻義雄） 木幡町長。

○町長（木幡正志） まちづくり推進会議を4回やってるんだけど、その内容について寺島参事の

方から答弁させます。

○議長（辻義雄） 寺島参事。

○まちづくり新幹線課参事（寺島進一） 今年度の活動状況についてお答えいたします。今年度まちなみ形成分野につきましては、まちなみ部会の方で4回議論しておりまして、その多くが商店街の活性化、それからまちの駅について議論しているところです。今年度までにはまちの駅の位置や、商店街の活性化の方向性について議論することとしております。以上です。

○議長（辻義雄） 北川議員。

○議員（1番 北川佳嗣） この新幹線駅周辺整備計画の中に、第5章のあたりになりますが、なんだろうこれ。お持ちでしょうかね。頁数でいうと5-9から5-10あたりにかけて、中心市街地の活性化方策が示されております。その中で、中心市街地の活性に向けた方向性についてという部分で、（1）方向性（2）スケジュール（3）今後の論点等について言及しているわけですが、来年度、この計画書の中でいうところの来年度、つまり29年度以降、一つ目、本町通の拡幅整備による街なみ環境整備（沿線の一体整備）という方向性と、もう一つ、駅周辺エリアへの商業施設の集約・再編（集約化による面的整備）という方向性の2つの視点で検討を進めていくということになっておりますが、この2つの方向性で進めて行くことに変更はございませんか。

○議長（辻義雄） 木幡町長。

○町長（木幡正志） 今質問あった方向性については、これから具体的に具体論まとめていくっていう段階なんで、今の段階での答弁はちょっと無理かなと思っております。以上です。

○議長（辻義雄） 北川議員。

○議員（1番 北川佳嗣） この5-9頁の（2）のスケジュールっていうところで、これ具体的に時限を定めてKPIが定められているんでありますが、その中で「街なみ環境整備の実施に向けては、合意形成や補償、家屋の建て替え、道路整備など非常に長い時間（10年程度）が必要となる。また、駅周辺エリアに商業機能を集約化させていく場合においても、用地の選定、買収などに長い期間が必要となる」となっております。「このため、中心市街地の活性化に向けては、来年度以降早急に」29年度以降早急にといいことですね「この2つの方向性について検討を行った上で、具体的な方針を定めていくことが必要になる」となっております。

（3）今後の論点等というところで、事業スケジュールを考えると、平成29年度以降、あと3か月で終わってしまうんですが、「29年度以降、1年から2年程度を目安に整備方針を決定する必要がある」となっているんですが、現実には中心市街地の当事者のみなさんの合意形成が簡単に進むのかどうか、大変心配をしておりますし、みなさん不安を抱いております。この辺不安を払拭していただけるような、ご説明というのはなされるのでしょうか。

○議長（辻義雄） 木幡町長。

○町長（木幡正志） 具体的な指し示されての協議でございますけれども、今お話があるのは本町通の話だと思うんですね。本町通の話については、今商工会の方にもお話をいただいて、商工会なりの協議を今させていただいて、商工会ではアンケート調査を今実施してる最中なんで、それらの結果を踏まえて、今後進めていきたいと、そう思っております。

○議長（辻義雄） 北川議員。

○議員（1番 北川佳嗣） 確かに商工会からアンケート調査がきました。つい一週間ほど前ですね。回収を12月の20日頃をめどにしている。どこが対象かという、大町、本町、元町の全商工会員が対象になっていて、その回答を求められている会員のみなさんにお話を伺うと、このアン

ケートはなんて答えていいんだろうというようなことをおっしゃってる方もいるし、その集計がいつ行われて、どのような報告がなされるのかも示されておりませんし。商工会のやることですから、これ行政としてどうなんでしょうかということをお伺いしたい。

○議長（辻義雄） 木幡町長。

○町長（木幡正志） 今商工会で独自に商工会会員のみなさんに考え方をアンケート調査して、考え方をまとめていきたいという方向で進んでやって、独自にやっておることですので、これには町の方でこういうアンケート調査をなさないとか、こういう項目で聞きなさいとか、そういう話は一切してなくて、商工会独自で進めてる内容だと思っております。

○議長（辻義雄） 北川議員。

○議員（1番 北川佳嗣） この中心市街地のみなさんは、親の代や祖父の代から、商売を受け継いで今まで町の経済を支えてきた方達であります。ですから、やっぱり今後は行政としてスピード感を持ったうえで、時間や労力を惜しまず懇切丁寧な説明や情報開示が求められると思うのですが、いかがでしょうか。

○議長（辻義雄） 木幡町長。

○町長（木幡正志） 今商工会の方から上がってきて、我々との協議の中で、本格的に進めていかななくてはならないのが、本町通の今後の方向性だなと思っておりますので、その上がってくるご意見に期待をしていきたいと、そう思っております。

○議長（辻義雄） 北川議員。

○議員（1番 北川佳嗣） 次に、構造物としての新幹線駅を捉えた場合に、ざっくりですが、約高さが30メートル、長さが300メートルの長方形の巨大な駅が誕生するわけですが、町民のみなさんの中には、具体的な大きさを実感できてない方が少なからずいらっしゃいます。しかもホームが島式の2面4線になる予定だとか言われても、なんのことやらちんぷんかんぷんでわけがわからないと言う方が大勢いるんです。そこで、駅周辺の全容は未だに明確にできる現状にはございません。ございませんが、既に決定している事項、例えば駅の高さや長さ、島式2面4線のホームの形状等について、既に決定している事項については海と山との位置関係等について、ジオラマでも模型でも構いません。木でも粘土でもコンピューターグラフィックスでも構いませんが、もう少し立体的に可視化できるものがあれば、大変説得力が増すし、合意形成にも役に立つと思うんですが、現状で公表できる範囲での、立体的な模型等の作成という計画はございませんか。

○議長（辻義雄） 木幡町長。

○町長（木幡正志） 7月の鉄道・運輸機構、横浜に出かけたときに、今後のスケジュールとしてお話を聞いて、地質調査をして、基礎設計に1年かかる。それから上物設計に丸1年は要する。今後2年経たないと設計案は上がってこない。そして上がってきた段階で3案を提示したい。A、B、C3案。この3案を持って町にお知らせをして、町の方で町民のみなさんを含めて、選択をしていただきたいというお話がございます。

その関係で前にも1回お話ししたんですが、それが出てきてから、ジオラマをきちっと3つ作って、見える形できちっと町民の方々に表現した形でお示しをしていきたいと、そう委員会でも言ったことが記憶があるんだけども。そんなことで、今、仮にでもね、粘土でもなんでもってという話なんです。今立体的にこれだっていうその正確に示せる物が今ない。仮に作ったにしても、前に委員会に提示した民間の方が作ってくれたジオラマがあったんだけども、その程度で済むのかなという気もしますが、この間も新幹線高架の決定に関する講演会で、鉄道・運輸機構の木全次長さん

の講演の中で、こういう形ですよ、こういう絵ですよってことで、縷々詳しくお知らせをいただいた経過がございますけれども、それは鉄道・運輸機構の資料の中で今回持って来たものであって、我々町の方には、例えば丸でも四角でも三角でも、したら形になってるのかっていったら、今の段階ではそういう形では示してはおりませんので、そういった形で示せるとすれば、今後仮に絵コンテのような形の1枚しかないのかなってそんな気がします。以上です。

○議長（辻義雄） 北川議員。

○議員（1番 北川佳嗣） では次に、国道5号線バイパス沿いの海岸における、砂や漂着物等の堆積物の除去に係わる改善措置の経過について、再質問いたします。

先ほど町長の方からご答弁もありましたが、昨年、ちょうど1年前の第4回の定例会でご質問いたしましたら、予想より早くに対応していただいて、よかったなというふうに思ってたんですが、途中で終わってしまいました。話を伺うと、とりあえず実証実験で堆積の度合いを測って、その後やるかやらないか決定するというご説明を受けておりますが、この実証実験の期間というのは示されてるんでしょうかね。

○議長（辻義雄） 木幡町長。

○町長（木幡正志） 1年経ったら1年目の実証実験の報告ってのは当然出てくると思うし、100メートル足らずって言ったんだけど、100メートルやったその先が、実は下の方に消波ブロックが入ってる。消波ブロックが入ってるもんだから、重機を上げちゃうとその消波ブロックが損傷する可能性がある。だから今回は、この100メートルの実証実験でやってみましょうっていう。ただ、おかげさまでって言ったならなんですが、今年は去年の8月30日のような台風10号のような大きな台風がおかげさんで長万部襲来しない。ほかではたくさん被害が出たところがありますので、そこにはお見舞いを申し上げたいと思うんですが、そういった大波が来た、高波が来た、漂着物が上ってくるという実証を、確実に掴んでいきたいなと思ってはいるんだけど、それにしても8か月で、50センチ砂が堆積したってこれがやっぱり実証実験の元になる話だと思うんで、そうしたことを踏まえて、函館建設管理部の方にまた要望を続けていきたい、そう思っております。

○議長（辻義雄） 北川議員。

○議員（1番 北川佳嗣） 確かに町長おっしゃるとおりで、一番、本当は一番状況が悪い所がまだやってない。なぜかというところに消波ブロックがあるというのも私見て知ってます。なんですかね、エジプトのピラミッドのようにちょっとだけ見えてるんですよ。ずっとこれは入ってるんだなってのはわかるんですが、ただ、やってない部分っていうのが、ちょうど先ほど同僚議員からも質問があった、公共施設の件で質問があったように、町立病院の裏だったり、特別母と子の家があったり、それから道道の3・4・3の交差点があったり、もちろん住宅もあるし商業施設もあるので、できればまだ着手してない中浜の斜路からの間をできるだけ早急にやっていただきたいと思いますので、この辺を引き続き要望を続けていただくということで理解してよろしいんでしょうか。

○議長（辻義雄） 木幡町長。

○町長（木幡正志） そのとおりのご理解してください。

○議長（辻義雄） 以上で北川議員の質問を終わります。

11時15分まで休憩します。

11時02分 休憩

11時15分 再開

休憩前に引き続き会議を開きます。一般質問を続行します。

柏倉議員。

〔議員（9番 柏倉恵里子）登壇〕

○議員（9番 柏倉恵里子） 私は2点お伺いいたします。

防災対策を問う。本年8月29日早朝と9月15日の朝、北朝鮮がミサイルを発射し、Jアラートの経験をしました。いつミサイルが降ってきてもおかしくない位置に日本があることをまざまざと知った瞬間でした。ミサイルが発射されてから到達まではわずか7～8分ということで、個々に判断するしかない状況であります。家では、あるいは職場では、どこが安全か意識を持つことが大事だと思えます。Jアラートに対する町長の考えを伺います。

9月18日には土砂災害警戒及び河川氾濫警戒のため、避難勧告が発令されました。このときは地域が指定されましたが、避難状況を町長はどのように感じているのか伺います。

今年は地域防災マスター認定研修会を行い、防災に力を注がれているところですが、全町一斉の避難訓練は行われていません。どのような考えをお持ちでしょうか。伺います。

2点目。労働力不足問題をどうする。平成29年10月の全国求人倍率ランキングをネットでみました。北海道は下から2番目の46番目でしたが、1.13で全国的に労働力不足と言える状況だと思います。長万部町でも以前は、子どもさんが地元に戻りたくても働くところがないという声を耳にしましたが、現在は企業から、誰か働く人を紹介してくださいと頼まれる状況です。もちろん全国的な状況ですから国策が必要ですが、町としてできることから始めたいものです。

私が考えるのは、まず住宅の確保、そして、現役を退いた方々や、小さい子どもがいる女性でも働ける環境づくり、これは企業の協力も必要になるので、協力してくれる企業への優遇措置など、町と企業がアイデアを出し合い、労働力確保に向かうのはいかがでしょうか。町長の所信を伺います。以上です。

〔議員（9番 柏倉恵里子）自席へ〕

○議長（辻義雄） 木幡町長。

〔町長（木幡正志）登壇〕

○町長（木幡正志） 防災対策を問う。ご答弁申し上げます。

1点目、Jアラートにつきましては、ご質問にありますとおりミサイル発射から7～8分で日本の上空に達することから、その対応は個人個人の判断に委ねざるを得ない状況となっております。一方で、Jアラートをはじめとする災害時における情報の正確・迅速な伝達は、住民の円滑な避難や避難所における各種情報の入手など、防災・減災対策を進めるうえで欠くことのできない手段であることから、引き続き、本町に最も適したシステムの早期導入に向けた取組を進めてまいります。

2点目、避難勧告に伴う避難状況につきましては、9月18日の台風18号では50名の方々が町内4か所の会館に避難をされました。しかしながら、本町ではここ数年来、人命に関わる大きな災害がなかったことから、避難をためらった方も相当数いたものと推察をしております。近年各地で発生している自然災害を鑑みると、決して本町もその例外ではないことから、今後も災害状況に応じた避難勧告などにより、町民のみなさんの安全・安心の確保を図りたいと考えております。

3点目、全町一斉避難訓練につきましては、昨年10月5日に実施した津波避難訓練では、1,000名を超える町民のみなさんの参加をいただき、避難路の確認や避難時間の把握など、一定の成果を出すことができたと考えております。本年度の訓練実施にあたっては、連合町内会からご意見をいただき、各町内会毎にテーマを決めて自主的な訓練を実施することについて、連合町内会長とご相談をさせていただきました。訓練の実施に際しては、同じ長万部町内であっても、海岸に近

い地域と高台にある地域では避難への対応も異なることから、地域の特性を考慮した、より実効性のある防災訓練とするためにも、本年度は、防災リーダー育成のための「地域防災マスター認定研修会」を開催し、各町内会の役員や消防団員など、町内外から63人の参加をいただいたところがあります。

また、11月1日には静狩地区において、風水害等の自然災害や土砂災害防止法をテーマとした講話を行い、20人の町民の方々に参加をいただきました。より実効性のある避難訓練を実施するためにも、町民のみなさんの防災に対する意識の向上は重要であります。本町の自主防災組織率は4.3%と、全道平均の54.3%を大きく下回る状況にあることから、引き続き町内会のご協力をいただきながら、災害に強いまちづくりに向けた取組を進めてまいります。

労働力不足問題をどうするというところで、答弁させていただきます。

「ハローワークはこだて」が発表した平成29年10月の函館管内有効求人倍率は、1.12倍で、八雲出張所管内では、1.09倍となっております。依然として労働力不足といえる状況であります。ご質問のとおり、私自身も企業などから労働者の紹介を頼まれることが多々ありますが、現実として町内には労働者となる方が不足しておりますので、要望に応えられないのが現状であります。

労働力不足問題を解消するための住宅の確保については、町内の企業などで従業員の住まいを用意するなど、労働者を確保しているケースもありますので、企業や事業者の自助努力で確保願いたいと考えております。

働ける環境づくりについては、高齢者の方々や特に小さい子どもさんがいる女性には、非常に重要なことであり、働き続けることにより、労働力不足解消にも繋がることとなります。企業などにおかれましては、職場環境改善や職員の処遇改善に向けての意識を高め、企業自身が自社の魅力や特色を発信することで人材確保・定着に繋がるよう努力をお願いしたいと考えております。事業者向けの職場環境改善セミナーや個別相談なども実施されておりますので、その活用についても企業等への周知に努めてまいります。以上です。

〔町長（木幡正志）自席へ〕

○議長（辻義雄） 柏倉議員。

○議員（9番 柏倉恵里子） 何点か質問させていただきます。ちょっと恥ずかしいんですけども、Jアラートが鳴ったとき自分はどうしたかって言いますと、すごい戸惑いました。そして最終的に取った行動は、まず窓ガラスのあるところから離れるということと、そして実際に行ったのは押入れの前でただ呆然と立ち尽くしているというようなことで時間が過ぎました。2回目にJアラートが鳴ったときはすぐ、隣にいる親の家に行きまして、それで親にもやはり窓ガラスから離れてもらおうと思って行ったんですけども、朝食食べながら、逃げまじょうと言っても、ふふんって感じの笑い声と共にそのままご飯を食べ続けるという、そんな状況で、本当にJアラートを聞いても取り方は多分すごい千差万別だったのかなというふうに思います。

それでネットをちょっと見てみたんですけども、その中では水の張ってない浴槽に逃げるのが一番だっていう書き込みもありますし、もし家に地下が作ってあるならば、地下が最善でしょうっていう書き込みもありました。そのほかにやっぱり窓ガラスの飛散を防ぐためにカーテンを引くということも、とてもいいことだと思うんですけども、まずそれもできればなおいいと思います。町でも確か広報の折り込みか何かに入れたと思うんですけども、効果があったかどうかというのは本当に私にとってはちょっとわからない状況なんですけれども。

町長は防災行政無線の話で今回行政報告に出されてましたけれども、60メガヘルツ防災行政無線と280メガヘルツデジタル同報無線、これプレゼンしてこの2通りに絞り込んだというお話でした。この機器がどういうものなのかちょっとわからないので、口頭で説明でいいんですけども、この2つのものがどういうものかっていうのと、60メガヘルツと280メガヘルツっていうのの違いがわかれば、それも教えてください。

○議長（辻義雄） 木幡町長。

○町長（木幡正志） Jアラートの関係については先ほどおっしゃったとおりで、みなさん個々に判断しなきゃいけないのかなと思います。それであの、ちょっと今ご質問あった60メガヘルツ、280メガヘルツの防災行政無線の選択について、技術的なこともありますので担当課から説明させていただきます。

○議長（辻義雄） 本前総務課長。

○総務課長（本前武広） お答えいたします。基本的には両方とも防災行政無線ということですので、屋外ですとスピーカーによる周知、あと各家庭に戸別受信機を設置して、情報を伝達するというものでございます。

その60メガヘルツと280メガヘルツの違いなんですけども、60メガヘルツの方については、国が防災行政無線の基本システムというふうに位置付けているシステムでありまして、運営主体が自治体となります。平成13年からデジタル方式を導入しておりまして、全国にも豊富な実績があるということで、将来的にも安心感があると。一方でデメリットとしては、戸別受信機等のインシヤルコスト、導入コストが掛かってしまうと。あと場所によっては家に、普通であれば戸別受信機を設置するとそれが作動するんですけども、場所によっては屋外のアンテナを設置しなければならないということは当然コストが嵩んでくるという、そういうデメリットもあります。

一方で、280メガヘルツのデジタル同報無線システムというのは、これはポケベルの周波数帯を使うシステムですので、非常に電波が強いということがありまして。ですので町内に良い場所を確保すると、1本鉄塔を立てるだけで、全家庭の戸別受信機も鳴動することができるというようなそういうメリットもあります。ただあの、導入実績が現在北海道内ではありませんが、検討している町村というのが3町ほどありまして。全国的に見ますと、直近で20市町村が導入しておりまして、導入してるところが拡大している傾向にあるシステムということ。デメリットとしては、運営主体が通信事業者ということで、民間の事業者になるというところがあります。あと、導入コストは比較的戸別受信機も安価で導入できるんですが、ランニングコストですね、維持していく経費が若干高いというデメリットがあると。このような違いがございます。

○議長（辻義雄） 柏倉議員。

○議員（9番 柏倉恵里子） それでは長万部町はまず防災行政無線を個々に入れる考えがおありだということと、それからこれが、もしやれるとなれば、次年度の当初予算の中に入り込んでくるのかどうかということと、大体どのぐらいかけて全戸に設置されていく予定なのかをちょっとお伺いします。

○議長（辻義雄） 木幡町長。

○町長（木幡正志） あの、新年度で先ほど説明したとおり、電波が実際に奥まで届くのかどうかっていうその電波調査を開始をして、その上でどの、60メガヘルツかいいのか280メガヘルツがいいのかっていうことで選定をしていく作業が来年度始まる。それに関連する調査予算だけが計上される。そして選択が終わってから、その後じゃあ総体の予算はどうするというのを決

めながら、できれば2年くらいの計画になろうと思うんですが、31年、32年度でこの防災無線の設置をして、2年間でやっていきたい。その後運用開始をするという流れは流れなんですけれども、実際電波が届く選択をはっきりした上で進めていきたい、そう思っています。

○議長（辻義雄） 柏倉議員。

○議員（9番 柏倉恵里子） わかりました。続きまして避難勧告についてなんですけれども、あの日私も山側に隣接する、危険災害、土砂災害危険区域になっているところを何件か尋ねてみたんですけれども。まず様子を見てみると、まだ様子を見ていう状態、もちろん勧告ですので、強制力はありませんけれども、まだ様子を見てるってところで、一旦様子を見てどういう状況になったらあなたは逃げるんですかっていう話ですよ。それで、その時にもう逃げなきゃない状況にきたっていうのを見極めた時はもう既に遅いのではないですかという話をしました。それで、もう今すぐ逃げてくださいという話をして「ああ、その方がいいのかねえ」と。やっぱりこの一声なんですよね、声をかける一声。自分では迷うけど、声をかけられたら逃げた方がいいかなって。多分そのみなさんの中には、この避難勧告で逃げてる人ってどのくらいいるんだろうとか、すごいためらう状態、まあ勧告なので余計そうなんだと思うんですけれども、何人かそういう方がいらっしやいました。もう既に逃げられていらっしやった方もいますし、それでこのちょっと土砂災害のことは本当に町長の答弁にもあったように、ないですよ長万部町で過去にそういう例が。ないものですからみんなやっぱりちょっと安閑としてる部分があるのかなって。もしこれが起きたら本当に大変な災害になると思いますのでね、もう少しこの避難、土砂災害の警戒区域にある方の危機意識っていうんですか、そこもうちょっとレベルを上げる必要があるんじゃないかなと思うんですけど、いかがでしょうか。

○議長（辻義雄） 木幡町長。

○町長（木幡正志） その土砂災害のゾーンに入ってる地域の住民の方々の訓練で2度ほどみなさんに集まってもらって、避難の状況等の説明をしておりますけれども、今あのちょうど高砂町、土砂災害警戒区域の工事、現実に始まりました。工事の延長は、新開まで1,700メートルの土砂災害警戒区域の指定になってるとこ、ここ今道の方で始まってきて、何年かかるか道の予算の配分次第なんだけども、既に始まってきたっていうことと。我々もこの台風18号、9月の18日に上陸するっていうことが気象庁の方から連絡あったのが16日、9月の16日。その時点で対策本部、予備対策のための対応協議を開始をしたということで16日から実はもう対策を始めておりました。次の日の17日には、自主避難場所の開設をするために、必要な物、ランタンだとか毛布の準備を進めながら、今回5か所に対策本部を設けた。特に土砂災害警戒区域ってのは、大雨が降った時には確実に起きる可能性が高いということで、今、事前に電話周知をしながら、ぜひ避難が出た時には、自主的に避難をしてくださいという形で呼びかけをしております、おかげさんで18号、熱帯低気圧かな、温帯低気圧かな、になって治まってきたんで、18日の確認をしながら、台風通過後に、19日に解除したということを含めて進めておりますけれども。やっぱり、どこも崩れたことがないんで、今おっしゃるとおり本当に危機意識が薄れてるのかなと思います。今後もっとそういう危機意識に対する啓蒙を続けていきたいなと思っています。

○議長（辻義雄） 柏倉議員。

○議員（9番 柏倉恵里子） 次続きまして、全町一斉避難訓練についてはわかりました。連合町内会長さんはじめ、各町内会が自ら、自分たちの状況に合わせてやりたいということであれば、それは全くそれで構わないんですけど。ただひとつ、私も毎回ここで話させてもらってるんですけど、

やはりふれあい大橋から理科大それから富野公園に避難する際の道路が1本しかないということで、車を使った場合に、本当にどういふふうになるかっていうことがまだ検証できてないということで、これはどこかでやはり1回やってみる必要があるかなというふうに思います。これは次の年でも構いませんし、次の次の年でも構わないんですけど、一度町長やりませんか。

○議長（辻義雄） 木幡町長。

○町長（木幡正志） 実は南栄町内会の方から、ぜひ車での避難の実施をしてみたいって話はあるんです。ただ、先ほどもちょっと答弁でお話ししましたけれども、町内会ごとにテーマを決めてやる、あと時間も。夜半やるとか日中やるとかって決めていきたいって話なんで、その防災リーダーになった人方が中心になって、その町内会で協議をしてやりたいって話が進んできておりますので、今そういった話を調査してまとめて、実施していければなど。本当に去年は徒歩での避難をしてください。徒歩でどのくらい避難場所までかかるのかって時間係数も考えていただきたいってことでやったんですけども、今の時代切迫してくると歩いて逃げろって言われても、車や自転車や乗り物に乗って逃げる人が相当数いるってことは推計もされますので、そうしたことが各町内会から起きてきたら、時期を見てひとつやってみたいなと思っております。

○議長（辻義雄） 柏倉議員。

○議員（9番 柏倉恵里子） 1つちょっと言い忘れたんですけど、これもネットの話で申し訳ないんですけど。ある町村のところを見ましたら、避難準備のところ（高齢者は避難）っていうふうに書いてあるのね。避難準備なので、準備段階なんですよね。だけでも高齢者、ましてや要援護者と言われる方々はもう避難をしてくださいという形での防災の書き込みがあるんですね、そのホームページの中に。これはすごい取組だなと思うんですけども、そこら辺もちょっと町長どうでしょうかね、参考にされては。

○議長（辻義雄） 木幡町長。

○町長（木幡正志） 高齢者の方が避難するの早いですよ、正直なところ。それで前日にまだまだ台風がひどくなってないんですけども、お年寄りばかりなもんだから避難させてくださいってことで、前の日に会館開けた例もあるんです。そして自主的に避難して、そこに次の日朝5時に会館行ってみたら、4人の方が泊まってました。若い人ほど自信過剰で逃げない。だからできるだけ、夜半に逃げる、風のついたときに逃げるってのはね無理です。やってみて。台風の去年の8月30日の台風10号経験してみて、10時台に風速33.5メートルいったときなんて、ものすごい風で、あの中で避難するってことはもうまずまず絶対無理。だから5時に避難勧告出して、明るいうちに避難してくださいって呼びかけは、させていただきました。夜の呼びかけってのは私は無理だと思っております。できるだけ日中の明るいうちに無事に逃げて、元気に帰ってくると。そういった形の避難の有りようを考えていきたいなと思っております。

○議長（辻義雄） 柏倉議員。

○議員（9番 柏倉恵里子） 動ける高齢者の場合はいいですけども、要援護者と言われる方は、やはり一人では避難できない方なので、そこら辺の対策には、やっぱり避難準備の段階で避難させるっていうことも必要になろうかなと思いますので、付け加えておきます。

次の問題にいきます。労働力不足ってということで、私の考えではやはり住宅整備っていうことが結構重要かなというふうに思うんですけども、まあ住宅整備したからってじゃあ本当に人来るのかって詰められれば私も「うーんどうだろう」っていうふうになるんですけども。自助努力されるのも私も重々承知しております。確か空き家対策として、家探しウェブも見ておりますけれども、

登録件数も依然少ないですし、何かそれに対しての問い合わせとかはありますか。

○議長（辻義雄） 木幡町長。

○町長（木幡正志） 働いてる人から直接の問い合わせはないんですが、企業からの問い合わせはあります。ただ町は不動産屋でもなければなんでもないんで、逆に町が世話して云々ってなると民業の圧迫ってことも当然考えられますので、情報提供についてはさせていただきます。今話があるだけでも4社。現実長万部の町の中で、ぜひ人がほしい、だれども集めるとなったら住環境を整備をしなきゃいけないってことで、情報の提供はいたしますよ、ただ空き家と言っても個人の財産、個人の所有ですから、こちらの方から貸してあげるっていう話にはならないんで、連絡場所を教えたり、そして借り上げたものをリフォームして、社員に賃貸で貸すのはこれは問題ないんですが、町が整備して貸すとなれば、町内業者に、建物を所有して、たくさん所有して賃貸で貸してる業者さんも何社もありますので、そうしたこの民業の圧迫ってことについては、繋がっていきたくらいなと思ってますので。情報の提供はしたいと思ってます。まだ早急になんとかしてほしいところがあるので、そこら辺今なんかこう選択をしながらどうでしょうかって、もしあれだったら聞いてみてくださいって話をしようと思ってるんです。

○議長（辻義雄） 柏倉議員。

○議員（9番 柏倉恵里子） 確か空き家の調査っていうのを1年がかりでやったかなと思うんですけども、長万部町にもかなりの空き家がありますので、その中で、調査した結果っていうのはもう出てるんじゃないかなと思うんですけど。その中で賃貸ができるとか、あるいはもう取り壊してくださいとかそういうような働きかけっていうことが実際にはもう行われている状況ですか。

○議長（辻義雄） 木幡町長。

○町長（木幡正志） ちょっとあの、担当課の方に振りますので。

○議長（辻義雄） 中里町民課長。

○町民課長（中里博也） 空き家の調査に関しましては順次やっております、これも先ほど町長も言いましたけども、個人の財産になりますので、それがいい状況の空き家もありますけども、現状調べますと、まだ仏壇があるからとかっていうことで貸せないような状況もございますし、施設に入所されてる方もいます。でも現実には何年も住んでないというような空き家もありますので、プライベートな部分もありますので、なかなか入っていくのが難しいっていう部分もございます。

○議長（辻義雄） 柏倉議員。

○議員（9番 柏倉恵里子） わかりました。あとその働く場所なんですけれども、現役を退いた方々、今高齢者事業団っていう受け皿はあるんですけども、そこに必ず所属しないと、現役を退いた方は仕事がないのかっていう状況になるのか、どうなのかちょっとそこら辺も、必ずそうだとはいえ切れないと思うんですけども。そういう方々を求めている企業もあってもいいと思いますし、あと子育て中の方が働ける場所、子育て中の方っていうのはやはりいつ何どきこう、例えば保育所に預けていても、調子が悪くなると帰んなきゃないとか、また何日も休まなきゃないっていう事態が、自分は働きたくても働けない状況に陥る場合ってあるんですよね。そうすると、長万部町でもすごくそういうことを優遇してくれる業者はありますけども、じゃあ子育て中の方はそこに限られてしか働けないんですかっていう状況が、要するに職種を選ぶことができないっていう状況が生まれてます、働きたくても。なので、もうちょっと企業側の努力も当然必要になるんですけども。やはり小さいお子さんを持ちながらでも働ける、そういう募集っていうか、そういう方を使っただけのようなお話もやっぱりしていただきたいし、当然現役を退いてもまだまだ仕事できる方た

くさんいらっしゃると思うので、そういうところの募集枠の、年齢の引き上げとか、そういうところなんかも何とかこう企業さんが見えると必ず町長にご挨拶に見えると思いますので、そういうところをなんとか町長からも要望していただきながら、労働力の確保に努めていただきたいと思いますと思うんですけど、いかがでしょうか。

○議長（辻義雄） 木幡町長。

○町長（木幡正志） 確かに、65歳以降の高齢の方を使っている会社もございます。それは本人の希望と本人の体力に合わせてっていうことで使っている企業も今現実にあるんですが。長万部でその大企業が何社もあるわけでないんで。そこは数社限られたとこだと思っておりますし。先ほど子育てをしながら働きたいっていう自由なフレックスタイムで働いてくださいっていう企業も実は長万部にもあるんです。ただそれ以外の2人か3人の従業員しか抱えてないところっていうのは、やっぱり人は戦力ですよ。やっぱり固定した戦力がなければ、やっぱり事業として成り立っていかないっていう企業もあるんで。ただ、今先ほど4社くらいありますよって述べたのは、ある程度しっかりした雇用を作り上げて、企業として、戦力として雇用していきたいっていう考え方も持っているんで、できれば、今おっしゃたとおりですね、訪問、尋ねられてご挨拶に伺って、何人か人がほしいなという話が出てくると、そういった話もしながら、雇用の拡大に繋がるような形には取っていききたいなと思ってるんですが。一番いいのは保育所が付いてたり、保育してくれる人がいたり、そしてお年寄りでも、足腰の悪い人は座って仕事ができるような職場で理解があればいいんだけど、どうしてもそこには賃金と、生産力ってのが伴ってくるんで、なかなか理解が難しいのかなという気はしますけれども、努力はしていきたいと思ってます。

○議長（辻義雄） 以上で柏倉議員の質問を終わります。

辻紀樹議員。

〔議員（3番 辻紀樹）登壇〕

○議員（3番辻紀樹） 私は2件についてご質問いたします。1点目、介護施設等の人材確保について。全国的に介護施設等の人材不足が叫ばれている中、長万部町内においても厳しい状況が続いていると聞いております。人材の確保は各事業者の責務とは考えておりますが、事業者においても労働条件や職場環境の改善など努力を重ねておりますが、なかなか成果が上がらない状況にあります。このような状況が続くと、施設としての利用者への安全確保やサービスの低下に繋がり、町民の利用にも影響を及ぼしかねないと思います。町としても何らかの対策を考えていかなければならないと考えますが、町長の所見をお伺いいたします。

2点目、長期の商工振興対策について。今年も師走に入り、平成30年度に向けた予算編成が始まっていることと思います。北海道新幹線長万部駅の高架化への変更認可を受け、将来の駅周辺整備に向けた議論が加速しているようですが、旧5号線駅前町道のまちなみ整備と、商工業の活性化を期待し商工業者と協議を進めていることに敬意を表します。

さて、近年商工業を取り巻く環境は年々厳しさを増しており、とりわけ商店や事業者の後継者不足・担い手不足により、将来事業経営を断念せざるを得ない状況が発生することも懸念されております。平成30年度からでも、商工業活性化のための補助事業を商工会と連携を図り、若い担い手が経営を継承して商店街の賑わいを取り戻せるような長期の政策を打ち出すべきと考えますが、町長の所見をお伺いいたします。

〔議員（3番 辻紀樹）自席へ〕

○議長（辻義雄） 木幡町長。

〔町長（木幡正志）登壇〕

○町長（木幡正志） 介護施設等の人材確保について、お答えをいたします。

昨年 の 12 月にも他の議員より同様の質問をいただきました。その際「町内で働く資格取得者の確保が難しい状況にあることは理解しておりますが、人材の確保は事業者の必須条件であり事業者等が努力するものと認識をしている」また「特定の資格取得に対しての補助は難しい」とお答えしております。しかしながら、85歳以上の高齢者の増加により福祉・介護の人材の需要も今まで以上に伸びると考えられ、国・道の指針においても中長期的な視点で人材の確保・定着対策を進めるべきとのことから何らかの方策が必要であると考え、社会福祉協議会とも検討を行ってまいりました。福祉・介護職員の安定的な人材確保と定着を図るため、町民等に対し資格取得に要する経費の一部を助成し、経済的負担の軽減を図ることにより、人材不足の解消に繋げていくなど、実施に向けた検討を進めております。

長期の商工振興対策について、お答えをいたします。

本年6月、「新幹線長万部駅高架化」が認可になり、駅周辺整備や町道本通線の道道昇格などに向けた具体的な議論が活発化してきております。とりわけ商店街は将来の新幹線駅開業時には、多くの人々をもてなす町の顔としての役割を担うこととなりますので、商工会においては、後継者・担い手対策や商工業を活発化させるための積極的な議論をしていただきたいと期待しているところであります。

昨年も議員より商工業の活性化について質問があり、国の制度等を活用し商工会と連携し取り組みたいと回答いたしました。これについては、昨年、北海道経済産業局の産業部長が来町し、積極的に国の補助事業の説明をされ、商工会とも協議されておりますので、有効に活用ができる事業があれば、町としても支援を検討いたします。商工業の活性化は、商工会の主たる事業でありますので、最初に商工会としての事業計画を企画立案いただくことが必要であります。

町としては、企画立案された事業計画を基に、商工会とヒアリングや意見交換をした中で、必要な施策を進めてまいります。以上です。

〔町長（木幡正志）自席へ〕

○議長（辻義雄） 辻紀樹議員。

○議員（3番辻紀樹） 再質問をさせていただきます。1点目の介護施設等の人材確保。これは回答書にもありますとおり、資格取得に向けて検討を進めてまいりたいということではありますが、これは実施時期というのはいつ頃予定、新年度で、または30年度以降ということでしょうか。

○議長（辻義雄） 木幡町長。

○町長（木幡正志） 平成30年度の予算編成を実施しておりますけれども、その中で検討してまいりまして、できれば平成30年の当初予算に盛り込んでいきたい、そういう考え方でおります。

○議長（辻義雄） 辻紀樹議員。

○議員（3番辻紀樹） 30年度、まさに今予算編成の時期でやっているとと思うんですが、資格取得等ということでもあります。それで、どの程度の支援体制になるかは別としましても、他町村から資格を持つ方が長万部町に、施設に勤務なさる場合、同じような支援対策というものはできないものでしょうか。

○議長（辻義雄） 木幡町長。

○町長（木幡正志） 新たな提案が今出てきたんだけど、他町から資格を持った人が長万部に来られて、介護事業に参入される、参入ってうか働かれるってことなんだろうけども、そうした方

に助成をなさいってということですか。

○議長（辻義雄） 辻紀樹議員。

○議員（3番辻紀樹） はい。あの当然資格を取るということについては、そこでなんらかの支援策があるんだと思うんですね。既に取り替えている方、介護の資格をお持ちになってる方が、他町村から長万部町に入るわけですから、資格を取る必要はないですよ。そうするとその方がわざわざ長万部町に来ていただけるっていうことになると、そこでなんらかの支援、例えば引っ越しの一部支援だとか、そういうものはあるでしょうけども、その支援の中身はどうか分かりませんが。それをその今の予算の中で、総体事業費は幾らあるかわかりませんが、その中で同じような支援策っていうのはできないものなんじゃないかな。

○議長（辻義雄） 町長、この議会反問権許されておられません。あちらに質問しないでください。木幡町長。

○町長（木幡正志） すみません、議長。以後気をつけますのでお許しをいただきたいと思います。まあ今突然違った質問が出てきたんで、どうしようかなと考えながらおるんですが、資格を持った人がその事業所に勤めるために転居してきたとすれば、これは事業者が引っ越し料だとか持つべきではないのかなと思うんですけども、そういう答えでいけませんか。

○議長（辻義雄） 休憩します。

11時56分 休憩

11時56分 再開

休憩前に引き続き会議を開きます。

木幡町長。

○町長（木幡正志） 無理な話だと思います。

○議長（辻義雄） 辻紀樹議員。

○議員（3番辻紀樹） 明快なお答えでした。

それでは次の、長期の商工対策ってということで、これは前年度、私が質問をさせていただきました。その中で、なかなか国の、道の施策で事業をやるという方がなかなか見つからない。これは当然そうなるだろうとは思いますが、これあの、どちらかといえば前向きな投資というふうに思います。これをいろんな町村の例を見ますと、町の事業として、室蘭市では店舗の新設の場合には、借りて、内装変える場合には200万円。それから松前町では3,000万円ということで、これも大体上限が200万円というような内容で、独自の政策を打ち出している町村もあります。これが全ていいかと言えば、僕はそうではないだろうと思うんですが、やはり長万部もこれだけ停滞してますと、何かの支援策は必要だろうとは思いますが。これは今後、順次いろいろ考えてく部分はあるとは思います。この点についてはどのように。

○議長（辻義雄） 木幡町長。

○町長（木幡正志） 商工活性化の事業ってというのは、トップダウンでこれをやりなさいって話よりも、商工会自体がこういう形で商工活性化をやりたいってやっぱり事業なり企画なりをしっかりと持って、上げていただかなかったら、ただこれをやりなさい。わかりました、はいします。って話じゃないんでないかなと思っておりますので、ぜひこの質問を通じて、商工会さんの方で事業の企画・立案をして、上げていただいて、こういう形で活性化を進めたいということをご提案いただければと思っております。

○議長（辻義雄） 辻紀樹議員。

○議員（3番辻紀樹） それで、この問題についてはまあ。先ほど同僚議員からいろいろ質問ありまして、僕の質問する部分が重複するものですから、その部分はちょっとこの場ではご質問いたしません、少し重複する部分があるかもしれませんが、それはご容赦願いたい。

それで、先ほど商工会がアンケート調査を実施したということで、そのアンケート調査の内容を僕も見ました。見せていただいた商店主に聞くと、これ本当は辞めれってということかなというように返事が返ってきたんですね。そうではないんでないでしょうかということ、その送られてきたとか、やはりあの新幹線のまちづくりの中の中央商店街のお店屋さんなんですけども。それで事業が、やはり町が旗振り役をやって、新幹線のあれで街なみを作ってるわけですから、どうでしょう、商工会にきたアンケートを商工会がもちろん整理をして、その整理の内容を元に、町も一緒に該当する商店に出向き、当然店主のご了解をいただかなければ、町の同行ってのは無理だとは思いますが。そこでいろんな政策をできる内容にあるのかどうか、いろんな人がいると思うんですね、店をお辞めになる方もいるでしょうし、それを引き続いてやっていきたい、いろんな要望をお持ちの方もいると思うんですね。そういう要望を聞いて、どういう対策を打ったらいいかっていうのを町も町なりに政策を持って。補助金出すだけが僕政策だとは思っていません。支援だとは思っていません。やはり商工会のそういう活動に職員も一緒になって、そういうアンケートの中身を充実させたものを作って、作り上げていく。それを元にした事業計画を実施するというのも、町の支援対策のひとつだとは僕は思います。そこら辺を踏まえていけば、踏まえなければ、なかなかこの活性化のための事業が進むとは思えないんですが、町長どうお考えになりますか。

○議長（辻義雄） 木幡町長。

○町長（木幡正志） いろいろな質問たくさん出てきましたけれども、何をどうする、アンケート調査がどうなるにしても、やっぱり商工会としての、進むべき方策、方向をきちっと整理をしてこない、今何が必要なのか、我々の目を通して、見てそれを提言をするってことについては、やっぱりやるべきでない。逆に言ったら、出てきた事業や企画を連携して、お互いに協議をして、その必要性を見つけ出していくってことが、一番最善の道でないのかな。それをいろいろ我々が業者さんなり経営者に会って、話を聞いて、こうだからこうしなさいっていうのは、私はそうではないなと思ってるんですけども。やはりそこはしっかり商工会っていうひとつの組織の中で、しっかり議論していただければ、我々もそれに対する理解も深めていけると思っているんですが。そうでないと、ただ補助出してくれって話にはいかない。そう思ってます。

○議長（辻義雄） 辻紀樹議員。

○議員（3番辻紀樹） 町長の言うとおりでと思うんです。やはり商工会が責任を持って、自分達の会員の将来を描く、これはもう当然だと思います。ただし、今商工会が町にそういうことをきちっと伝え、伝達をし、それを町が受ける。そういう体制をきちっと作っていかねばならないと僕は思うんです。だから商工会がやる事業、その事業に対して町はどういうような施策を設けていけることかってのは、町自体で考えていかねばならない問題だとは思っています。ですから先ほども言いましたけども、お金を出すだけが支援だとは僕は思ってません。活性化に繋がると思ってます。やっぱり人的配置の中で、人員がやっぱり一緒に行動を取るということも必要、時にはですよ、全部が取れって言うてんじゃないです。時にはそういう行動も、支援も必要でないかなということ、そんなに考え方が違ってはいないと思うんですが、同じような答弁になるかもわかりませんが、再度答弁いただければと思います。

○議長（辻義雄） 木幡町長。

○町長（木幡正志） いくら議論しても同じ答弁になるのはよくご存じだと思うんだけど、商工会にも商工会の理事会、経営者としてみなさん優秀な人方が理事会に入っておられるし、それを執行する事務方も優秀な方がおられるわけだから、やっぱりそこはね、組織としてしっかりまとめきって、事業の企画・立案をさせていただく。その上で我々に提案をいただいたものに対する理解を深めていく、それが最善の道だと思ってる。こういう答弁しか今日ではできないと思っております。以上です。

○議長（辻義雄） 以上で辻紀樹議員の質問を終わります。

以上をもって一般質問は通告どおり全部終了いたしました。これをもって一般質問を終結いたします。

午後1時まで休憩いたします。

12時05分 休憩

13時00分 再開

休憩前に引き続き会議を開きます。

◎議案第12号 平成29年度長万部町一般会計補正予算（第10号）

○議長（辻義雄） 日程第2、議案第12号平成29年度長万部町一般会計補正予算（第10号）の件を議題といたします。提出者に提案理由の説明を求めます。

本前総務課長

○総務課長（本前武広） ただいま上程されました、議案第12号平成29年度長万部町一般会計補正予算（第10号）について、その内容をご説明いたします。

今回の補正額は、歳入歳出にそれぞれ6,964万6,000円を追加し、補正後の予算総額を52億2,363万6,000円とするものであります。

内容は、補正予算書に添付しております概要により、歳出からご説明いたします。

総務費は、6,923万5,000円の追加で、ふるさと納税の増加に伴い、関連する費用を計上するものであります。一般管理費、役務費580万円の追加は通信費で、寄附者贈呈品にかかる送料であります。企画費、報償費は2,000万円の追加で、まちづくり基金寄附者贈呈品。役務費は343万5,000円の追加で、内訳は公金払手数料が313万2,000円の追加、データ処理手数料が30万3,000円の追加であります。

積立金4,000万円の追加はまちづくり基金積立で、歳入では16寄附金、まちづくり寄附金で、歳出同額の4,000万円を計上いたしました。

教育費は41万1,000円の追加であります。

中学校費、学校管理費、需用費41万1,000円の追加は備品修理費で、マイクロスクールバスの車内用ヒーター本体部について、経年劣化により負荷がかかり、発煙や暖房機能の低下が見られることから、交換修理をするものであります。

次に、歳入についてご説明いたします。ただいま歳出でご説明した分は省略させていただきます。

17繰入金、財政調整基金繰入金は2,964万6,000円の追加で、今回の補正で不足する財源を当基金から取り崩し、収支の均衡を図るものであります。この基金取り崩し後の当基金残高見込額は、12億342万7,000円となります。

以上がただいま上程されました、平成29年度長万部町一般会計補正予算（第10号）の内容で

あります。よろしくご審議のほどお願いいたします。

○議長（辻義雄） これより質疑を行います。質疑は歳入歳出を一括して行います。3頁です。ありませんか。

〔「なし」の声あり〕

これをもって質疑を終わります。

討論ありますか。

〔「なし」の声あり〕

討論を終わります。

これより直ちに本案を採決いたします。

お諮りいたします。本案は原案のとおり可決することにご異議ありませんか。

〔「異議なし」の声あり〕

ご異議なしと認めます。よって本案は原案のとおり可決することに決定いたしました。

◎特別委員会の報告について

○議長（辻義雄） 日程第3、特別委員会の報告についての件を議題といたします。お手元に配付したとおり、まちづくり・新幹線調査特別委員会委員長から、視察調査報告書の提出がありましたので本件に関して報告を求めます。

柏倉委員長。

〔委員長（柏倉恵里子）登壇〕

○委員長（柏倉恵里子） 平成29年10月17日から19日、本特別委員会にて岩手県岩手郡岩手町、青森県東津軽郡今別町を訪れ、新幹線駅周辺整備事業について視察調査を実施いたしましたので報告いたします。

日時、平成29年10月18日水曜日午後2時から。

視察先、岩手県岩手郡岩手町。

視察内容、1、東北新幹線いわて沼宮内駅の概要について。

平成14年12月1日に東北新幹線が八戸駅まで延伸開業したことに伴い、新幹線の停車駅となり、新幹線いわて沼宮内駅が誕生。この駅は駅舎4階部分に相対式ホーム2面2線を有する高架駅である。また、並行在来線であった東北本線の一部がIGRいわて銀河鉄道に転換されたため、東北新幹線と岩手銀河鉄道の接続駅となっている。駅舎3階に新幹線と在来線の改札口があり、互いのホームは跨線橋で連絡している。

2、いわて沼宮内駅周辺整備事業について。

（1）岩手広域交流センタープラザあい施設整備。東北新幹線いわて沼宮内駅の開業に合わせ、多目的集会施設を併設した駅ビルを総工費約10.7億円で建設している。構造は鉄骨造3階建、延床面積2,676.94㎡で、様々なイベントが開催される多目的ホールや、人数に合わせて選べる会議室、広域物産コーナー、広域観光コーナー、総合案内、レンタカーコーナーなどを備え、人が集う交流拠点として活用されている。

（2）町営駐車場整備。西口南駐車場38台、西口北駐車場96台、東口正面駐車場83台、計217台分を整備している。料金は24時間で300円、ただし2時間までは無料としている。月極料金は西口北駐車場が3,600円、東口正面駐車場が4,100円となっている。その他、東口

にイベント時等の臨時駐車場として40台分を整備している。

3、新幹線開通による効果について。岩手町は国道4号線が縦断し、東部には国道281号、西部には国道282号及び東北自動車道西根インターに連結するなど、県北地域における交通の要所としての役割を果たしている。またホッケーチーム等の合宿や、全国規模の大会の誘致を実現しており、交流人口の拡大を図っている。

4、まちづくりの取り組みについて。駅周辺整備に合わせて、新幹線駅、道の駅、街の駅、川の駅からなる「4つの駅構想」に基づき、「交流と連携」をキーワードとした地域基盤づくりを進めており、相乗効果による町の活力促進を図り、交流人口60万人を目指している。

5、新幹線開業による課題について。

(1) 並行在来線問題。経営分離に伴う鉄道運賃について、県南(JR)と県北(IGR)の運賃格差が生じており、不均衡是正は開業後から問題視されている。鉄道ダイヤについては、JRに比べ、本数増加等により利便性が向上されているものの、いわて沼宮内から盛岡間は平行するバス路線の運賃が低額であることから、鉄道利用からバス利用に並行する利用客が多くなっている。

(2) 伸び悩む町内宿泊者数。新幹線開業により、東京が日帰り圏になったことから、思っていたほどの増には結びついていない。

(3) 町営駐車場の定期利用の減少。並行するIGRいわて銀河鉄道の乗客にも利用されており、利用台数は増加傾向にあるものの、月極駐車場台数は減少傾向にある。

日時、平成29年10月19日木曜日午後2時30分から。

視察先、青森県東津軽郡今別町。

視察内容、1、北海道新幹線奥津軽いまべつ駅の概要について。

平成28年3月26日、北海道新幹線青森駅から新函館北斗駅間の開業に合わせて、奥津軽いまべつ駅が開業。本州最北端の新幹線駅であり、JR北海道の管轄する駅としては最南端に位置する駅である。当駅はJR東日本津軽線の津軽二股駅と隣接しており、津軽二股駅から連絡通路が整備されている。また、道の駅いまべつにも隣接している。駅舎は鉄骨造3階建て2面3線の地上駅であり、高台に設置されている駅本屋棟と高さ約25メートルの昇降棟があり、両者は下り狭軌線及び保線用路線をまたぐ通路が繋いでいる。

2、奥津軽いまべつ駅周辺整備事業について。

昭和63年3月13日に津軽海峡線が開業した際に、津軽今別駅が設置されたが、待合室が狭いことや、観光地のPRや観光案内の拠点がないということから、平成8年に総事業費約2,600万円で半島プラザスクルを建設。また北海道新幹線開業に向けて、平成26年に総事業費約1億1,800万円で物販販売、レストラン、トイレの拡大、観光・道路情報コーナーを新たに整備している。リニューアル後、売上・入込客数ともに増加し、新幹線駅効果のみだけではなく、道の駅での買い物・食事を目的とした来場者が増加している。

3、新幹線開通による効果について。

道の駅内にレンタカー営業所を誘致している。レンタカーの利用はほぼ毎日あり、津軽半島周遊観光などの観光拠点として、潜在的な需要を掘り起こしている。新幹線乗降者数は、1日平均で平成28年度は約120人、平成29年度は約100人となっているが、広域人口からすると、決して少なくないのではないかと分析しているようである。

4、今後の課題等について。

奥津軽への観光客誘致と、二次交通の促進を図るとともに、観光モデルコースや、時間等の設定

が必要となっている。また町内に宿泊施設が不足していることから、地方創生拠点整備事業により、合宿、修学旅行のほか、一般観光客も宿泊可能な体育施設を総事業費約7億円で建設中である。

所感。

・道の駅石神の丘は、自動車乗り入れ禁止部分の広場を囲むようにコの字型に建築されており、大変使い勝手が良さそうな形態で参考になりそうであった。

・奥津軽いまべつ駅の駐車場は、有蓋であり費用はかかるが、寒冷な降雪地域には必要な設備であると感じた。

・新幹線建設には、在来線の問題、不確定な要素が多いが、柔軟な対応と、素早い取り組みが必要ではないかと感じた。

・視察したどの駅も、周辺の土地をしっかりと確保している。早めに土地を確保する手立てが必要ではないかと感じた。

・早くまちづくりのコンセプトを定める必要があると感じた。

・今回自主研修した駅の中に、以前視察した駅があったが、駅前整備は当時と比べてほとんど進んでいない様子。あるいは少し寂れた印象を受けた。

・数年前に視察した新幹線駅の周辺は何も変化がなく、開業と同時に施設整備を完成させなければ、その後の整備は難しいと痛感した。

まとめ。

今回いわて沼宮内駅、奥津軽いまべつ駅の周辺整備事業について、視察調査、そのほかに以前視察した新幹線駅を含め自主研修してきたが、新幹線駅や駅周辺整備事業のほか、開業後の現状や、課題も含め、調査することができた。今回の視察調査で得た成果を我が町の新幹線駅及び駅周辺整備事業計画などに生かしていきたい。行政、議会そして町民がそれぞれの立場で協力し合い、新幹線を核としたまちづくりに向けて、町全体が一丸となって、まい進することが肝要である。そのため本特別委員会としても、さらなる調査・研究に取り組んでまいりたい。以上でございます。

[委員長（柏倉恵里子）自席へ]

○議長（辻義雄） 以上で特別委員会の報告を終わります。

◎所管事務等の調査及び閉会中の継続調査について

○議長（辻義雄） 日程第4、所管事務等の調査及び閉会中の継続調査についての件を議題といたします。お手元に配付したとおり、各常任委員長および議会運営委員長から特定の案件について閉会中に委員会活動を行いたいとの申し出がありました。

お諮りいたします。各常任委員長および議会運営委員長からの申し出のとおり、閉会中の委員会活動を承認することにご異議ありませんか。

[「異議なし」の声あり]

ご異議なしと認めます。よって各常任委員長および議会運営委員長からの申し出のとおり、閉会中の委員会活動を承認することに決定いたしました。

以上をもって本定例会に付議された案件の審議は全部終了いたしました。

◎閉会宣言

○議長（辻義雄） これにて平成29年第4回長万部町議会定例会を閉会いたします。どうもご苦
勞様でした。

13時15分 閉会
